Osaka kosenkai zasshi

大阪古泉会雑誌

These are partial contents of the Osaka Numismatic Society publication from 1914 to 1916. I obtained the images from the Yahoo Japan auction site in June 2020.

The original images were of low resolution and I have tried to improve the quality.

Where I could identify the person that supplied the coin rubbings, I added their name.

Osaka kosenkai zasshi Issue # 56 July 1914

Osaka kosenkai zasshi Issue # 56 July 1914

大阪古泉會雜誌
大澤知足齋
知足齋　大澤德三郎

糟谷安樂堂

虎僊樓　下間寅之助

大阪古泉會雜志
原田元寶堂
元寶堂　原田寅之助

大阪古泉會雜誌
田中清岳壹

Osaka kosenkai zasshi # 57 July 1914

せる附近には蛭子神社ありて社内に有名なる片葉の芦あり此芦にて箸を作り參拜者に讓與す傳へ云ふ菅公遠島の際闘所に一泊の後乘船せられ芦の如きもの迄へ離別を惜みて片方にのみ葉を出すと其今日迄も片葉なるは一奇なり依て考ふる闘地は菅公との關係浅からざるより或はその當時の埋沒にやあらんか

（二）　和銅開珍錢の發掘

奈良縣添上郡古市村に於て數年前和銅開珍錢の發掘せられしを見たるに祝瓶と稱する壺に入りて壺の中青錆の附着せる所あり土中當時壺の斜めになり居りし爲めにや斜めなりしやうの痕跡ありて古色青錆紺青等の鏽色淺く眞に見心地よき古錢にて他錢の混入しあらざるを見れば其埋沒の時代も推定せらる和銅錢の種類

○降和　○重文　○長珍
○昇口（和の口上部にあるもの）　○下口（和の口下部にあるもの）　○闊緣
○細緣　○廣郭（內郭の廣きもの）　○細郭（內郭の狹きもの）
○小珍

等は孰れも枚數伯仲の間にあり最も少數なるは前記以外に

○背夾沒（背の外緣內郭の不明なるもの）　○薄小（錢體の薄小なるもの）
○不明錢（文字の判讀不可能のもの）　等なり

發掘錢中二枚三枚五枚等錢と錢と膠着せるもの八枚數合計二百一枚

發掘の動機及び年代共に不明

前記種類別の如く錢體の薄小なるもの背夾沒なるもの不明なるもの少數なると他錢の一品も混入せざる等より考ふれば本發掘錢の埋沒は和銅初年にありしものならんと推定す

（以下次號）

大正三年七月七日印刷
大正三年七月十二日發行　（非賣品）

大阪市南區安堂寺橋通三丁目九番屋敷
編輯人　下間宗之助

大阪市南區笠屋町三十八番地
發行兼印刷人　原田寅之助

大阪市南區安堂寺橋通三丁目九番屋敷
發行所　大阪古泉會事務所

Osaka kosenkai zasshi # 57 July 1914

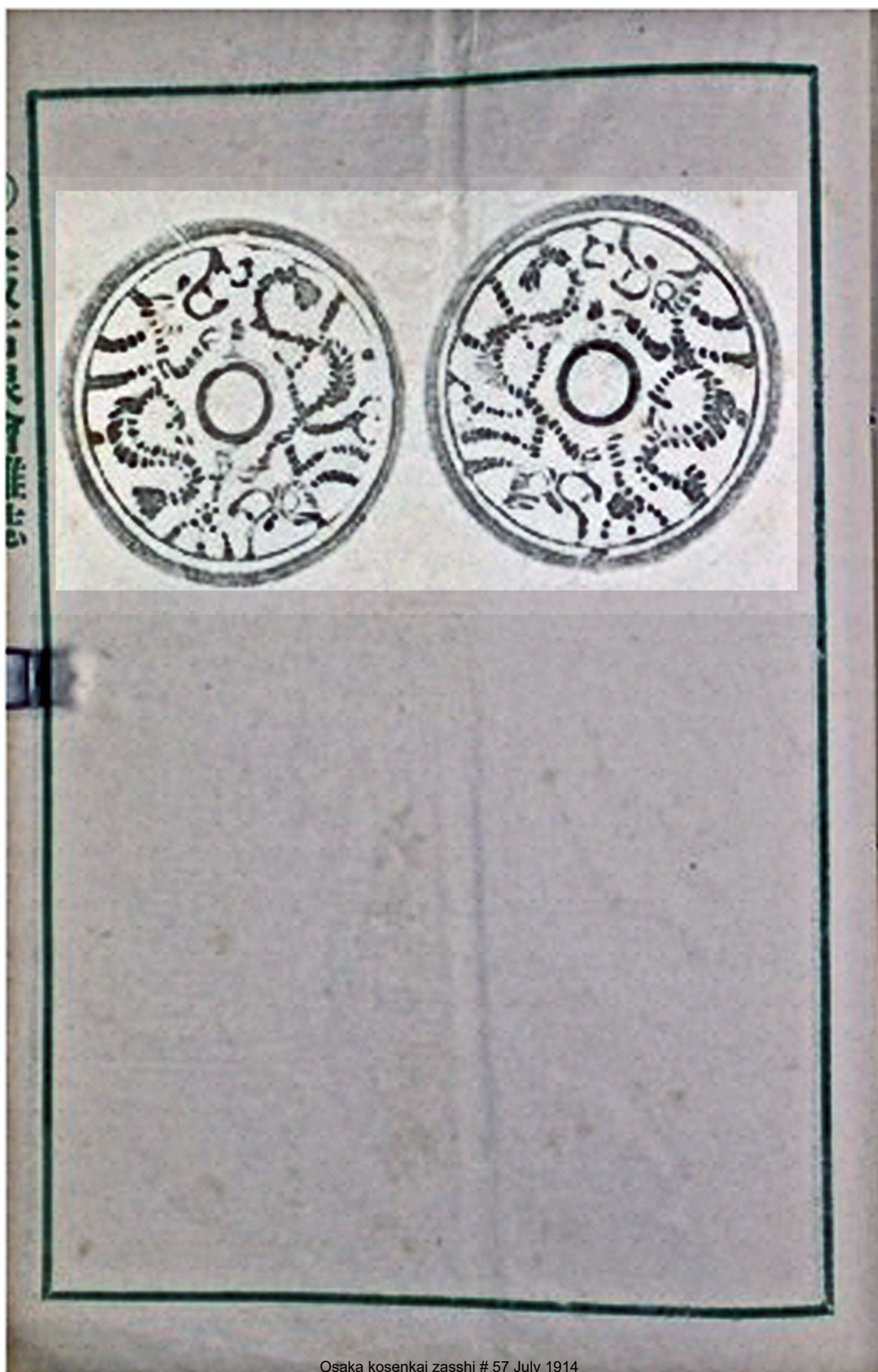
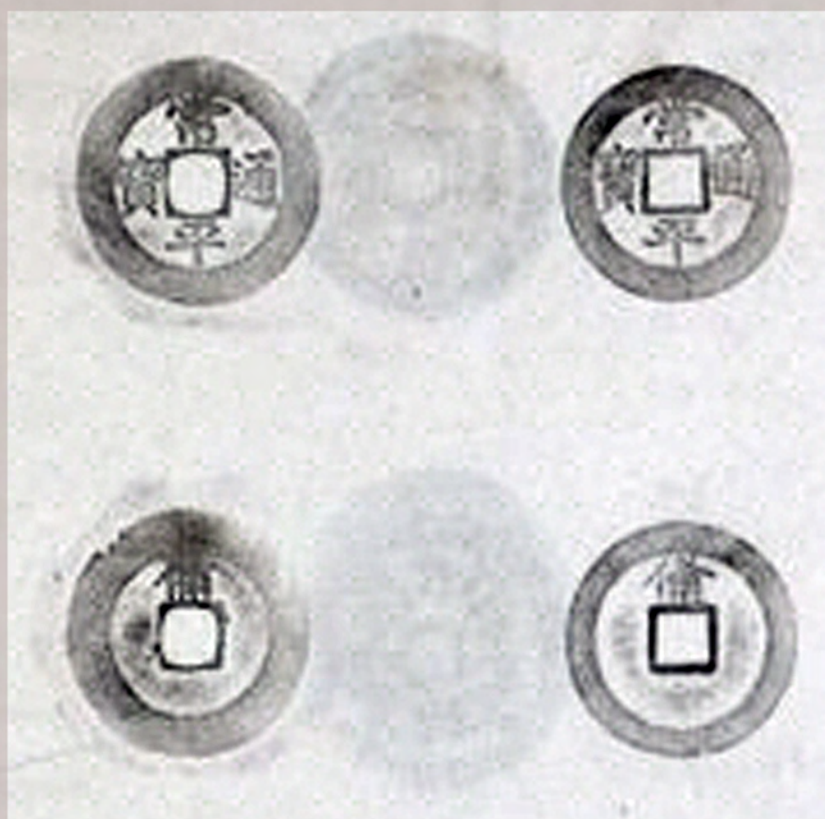
大阪古泉會雜志
神功開寳
野崎靜修軒
靜修軒 野崎鑅君

光緒通寶
大澤知足齋
知足齋　大澤德三郎

Osaka kosenkai zasshi # 57 July 1914

圓々堂 甲賀　宜政
甲賀圓々堂

大阪古泉會雜誌

Osaka kosenkai zasshi # 58 Oct. 1914

○本會第六十六回例會記事

大正三年九月十三日正午より本會第六十六回例會を豫定の會場なる書籍商組合事務所に於て開會せり當日の來會者は橋本治作原田寅之助今城梅吉甲賀宣政木村嘉平水谷久右衛門菅谷ミチ下間寅之助の諸氏にして殘暑甚だかりしためにや常よりは稍寂しかりき扨て當日出品の主なるものは林氏の文久永寳畑谷氏の文久通寳橋本氏の錢屋錢今泉氏の蒔丸環付錢木村氏の鶴島に關する京珠の駒喚原田水谷兩氏の寛永錢等にして殊に甲賀氏の即墨邑之法化は山東省に於ける我上陸軍が近く占領すべき即墨の古代泉なると且つ背に日の丸あるとにより時局談に花をもたせたり

今當日出品錢中より本誌に押拓品評するもの左の如し

寳永通寳（重一匁三分）　靜岡　野崎彦左衛門出品

淡黑褐の古色を帶び字文の橋及び背の所々に赤土を附着し銅色を現はさず種類は小様の闊字に屬し類品中の美錢たり錢體厚肉にして板上に側立すべし本朝錢中板上に側立するものは比較的粗錢なるも本錢の如き美錢は殊に希なるものとす

元和通寳（重八分三厘）　東京　田中　謙出品

面背の平地は黑褐色にして其他は淡褐なり銅色は黄褐なるが背の所々に紅銅の如き所あり種類は小様に屬し類品中の美錢なり存在現今希少に屬し特に本品の如きは容易に獲難きものなり

寛永通寳（重九分五厘）　松阪　水谷久右衛門出品

錢體一面淡黑褐の古色を帶び銅色の現はれたる部分は黄褐なり種類は二水永十三に屬す通寳闊字に鑄溜りあるは惜むべし二水永十三は古寛永錢中最も珍貴なる者にして並品は絶少なりとす

寛永通寳（重一匁八分二厘）　原田　寅之助出品

淡褐の古色にて銅色は深黄褐なり製作は錢體一面に鑄肌荒くして天保通寳當百錢の如し種類は高猛小背の背錢にして當四錢中の希少品たりその鐵錢用錢も亦本品と共に獲難きものなり

天保通寳當百錢（重五匁九分）　三河　大澤　德三郎出品

淡褐なる古色は字文の間に附着し其他は無古色の錢種錢なり細部に次て發行したるものなるよし本錢現時存在數を減じ容易に獲がたし

文久永寳（重一匁七分八厘）　東京　林　靜男出品

淡黑褐の古色を帶び銅色を現はさず種類は大字に屬し文久三年以後の鑄造に係る文久錢の眞文は鑄目少數と

に較り建字は一に近きも重點にあらず中字は一に近く通字の四泉譜は**コ**様なるも**コ**様にして末畫はねあり寶字は一に近く内郭廣く闊緣なり泉譜より錢體七厘強大なり

○建中通寶の三（發掘地同所）　錢體薄黑褐にして平地は薄き青錆を字文の特に附着し一の如く瀬田雅樣の古色ある美錢なり建中通寶の四字は泉譜に疏く一及ひ二に近きも通字は上下の幅狹く錢體薄小にして末鏡乃至は對燒にあらずやと思はる

○大暦元寶の陳列は四品あり

○大暦元寶の一（發掘地廣東以外吐魯番、和闐の品もあるよし）　微少の薄き青錆を錢體一面に較り泉譜原品とは暦字の第一畫短く暦大の部より寶字の左側まて緣細く暦元間の外輪廣きは錢體泉譜と類樣なり内郭は幾分細きも錢體特別強大なり

○大暦元寶の二（發掘地同所）　一と同古色にして錢體泉譜より縮少せる加減にや大暦元寶の四字共幅狹く殊に元字の一畫短く二畫開元爪形の如く上にそれたり内郭細くして寶上下に長きは泉譜と同式なり

○大暦元寶の三（發掘地同所）　前二品と同出土なるが故に同色なり大暦元寶の四字共肥く大暦の二字は泉譜より大なり元寶の二字は二に近く泉譜に疏し而して外輪特に廣く錢體の肉厚し幾分粗製厚重なり

大暦元寶の四（發掘地同所）　錢體最小樣にして特別の粗錢なり錢體泉譜の品より小樣なり押形不可能につき取らず

○寄贈交換

東京古泉協會雜誌第四號第五號　　東京古泉協會

考古學雜誌第四卷第十二號第五卷二號　　考古學會

大正三年十月廿五日印刷
大正三年十月三十日發行　　（非賣品）

大阪市南區[illegible]町三十八番地
編輯人　下間寅之助

大阪市南區安堂寺橋通三丁目九番屋敷
發行兼印刷人　岸田寅之助

大阪市南區安堂寺橋通三丁目九番屋敷
發行所　大阪古泉會事務所

Osaka kosenkai zasshi # 58 Oct. 1914

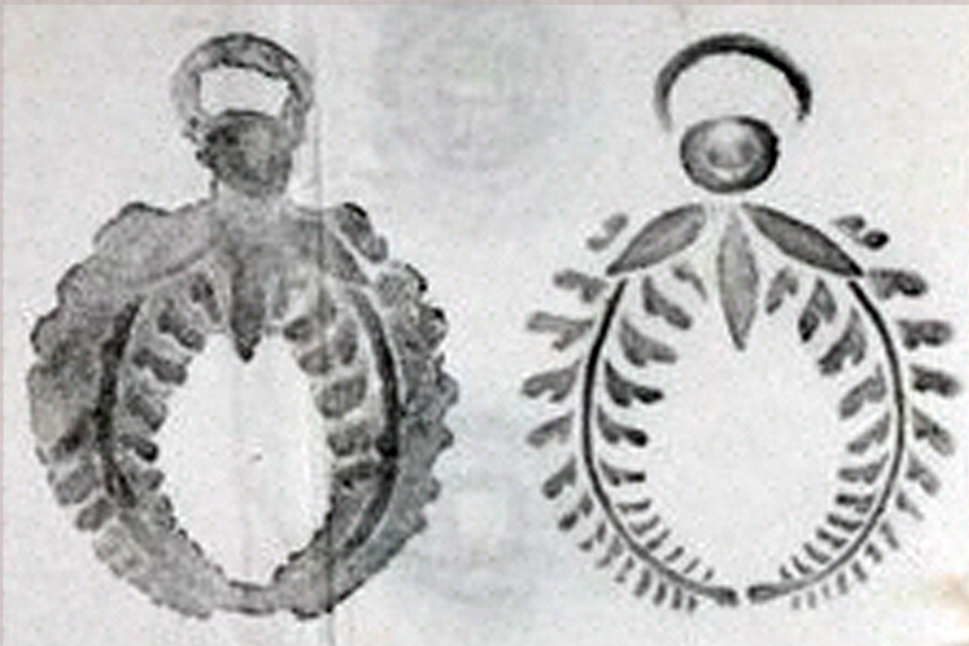
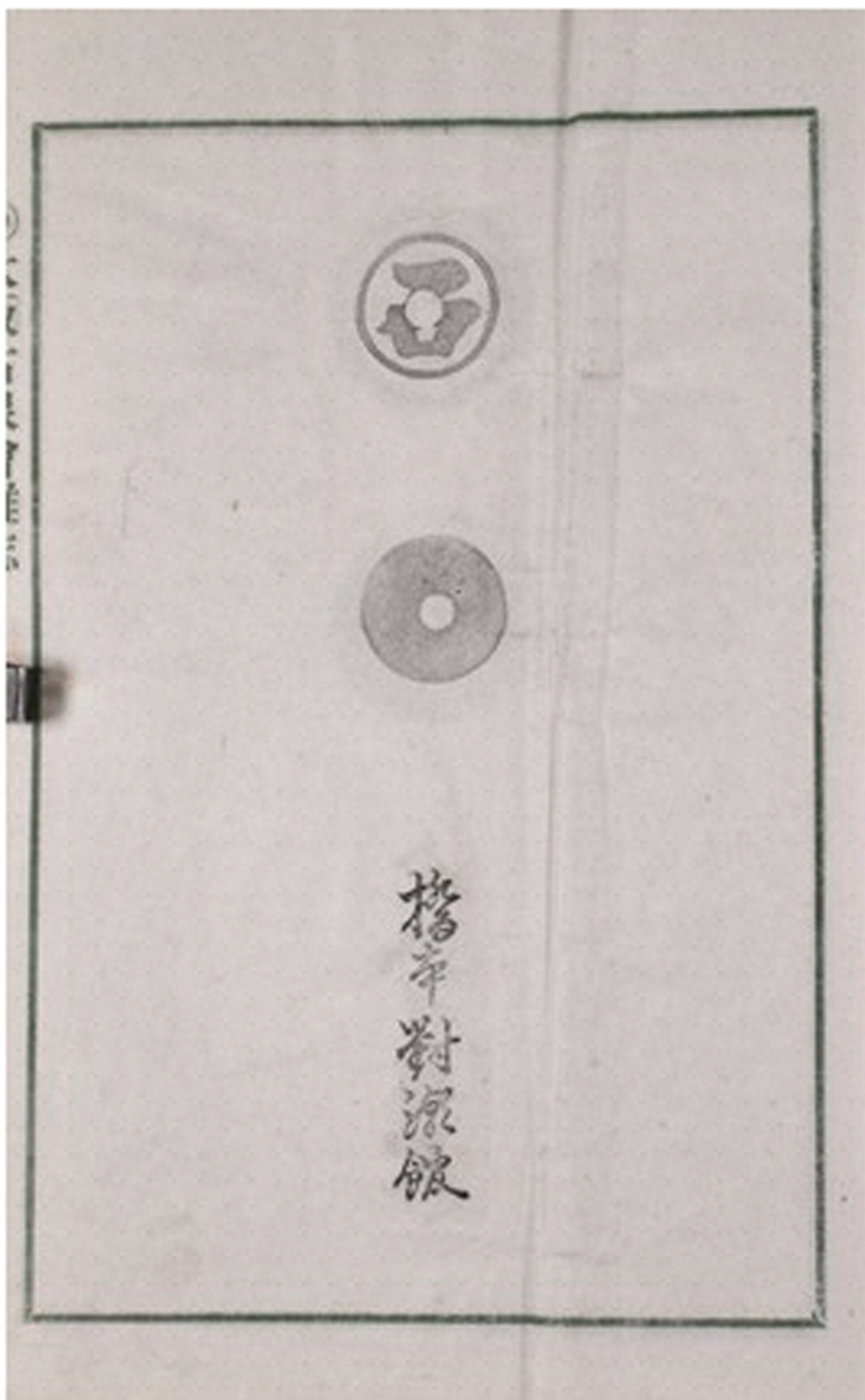
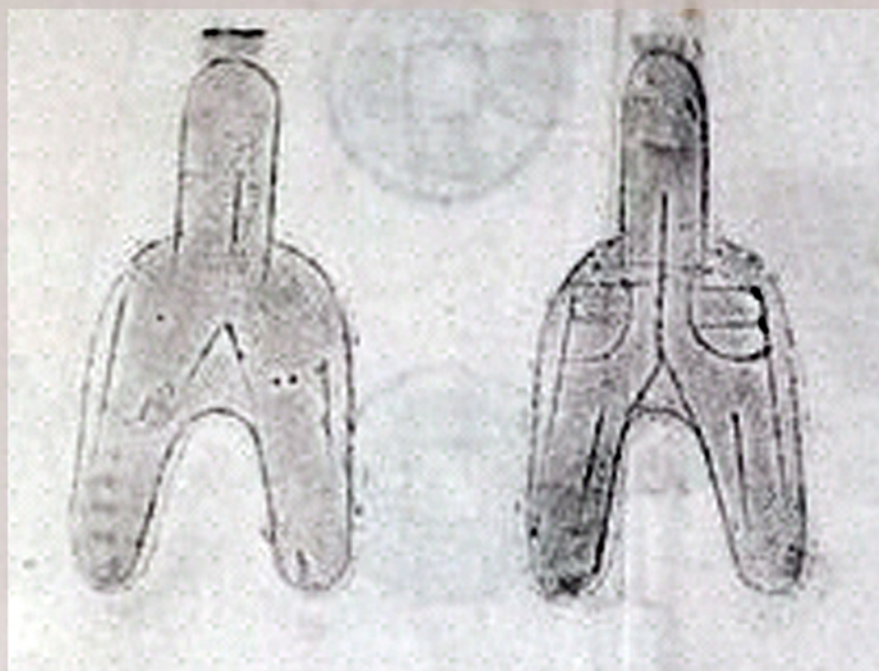
静修軒 野崎鑅造君

静修軒 野崎鑅君

平泉圖香堂

Osaka kosenkai zasshi # 58 Oct. 1914

大阪古泉會雜誌

Osaka kosenkai zasshi # 59 Dec. 1914

○本會第六十七回例會記事

大正三年十一月八日正午より本會第六十七回例會を既定の會場に於て開會せり來會者は橋本治作原田寅之助平泉平右衛門木村甚平桂谷ヒテ水谷久右衛門下間寅之助の諸氏なりき當日陳列品の內原田氏の古く水戸錢と稱せるもの丶手替り錢數十種は來會者の羨望措かざる品なり林氏の文久錢例に依て珍らしく木村氏の異錢の彫刻錢數十品下間氏の大泉五十厚肉錢の青錆二十餘品及び五行大布泥錆三十餘品等は孰れも好個の參考の資たらざるはなかりき

次回は來る一月十七日正午より同書籍商組合事務所に於て開會すべし

今回出品中本誌に載するもの左の如し

隆平永寳 重一匁四分　下間　寅之助出品

灰緑褐及び青錆を錢体一面に被り銅色の現はれたる部分は灰黃褐なり近く淀川より發掘したる數品中の一にして發掘後無意識湲のために銅色の露出されしは本品のために惜しむべし種類は細緣閉字の痩字に屬す類品中の美錢なり

承和昌寳 重七分三厘　静岡　野崎彥左衛門出品

黑褐なる古色にて面背の平地には僅少の泥錆を附着したる美錢なり種類は中様の閉字に屬す現存稀少のものなり

寛永通寳 重一匁九厘　尼崎　橋本　治作出品

銅色の現はれたる部分は黃褐にして淡黑の古色あり面背の平地は銀鏽様の錆色あり種類は二水永閉緣に屬し存在少なし

文久永寳 重一匁三分六厘　東京　林　静男出品

淡褐なる古色を帶び銅色は深黃褐なり字文端正にして製作精巧なる鑄錢へせし銅樣錢にして一見彫刻樣の如し種類は眞文に屬し現存殊に稀少なり本品の面文は小笠原壹岐守の書なりと云ふ

文久貨泉 重十五匁五分　仙臺　畑谷　龜治出品

鐵錢特有の錆古色を帶び面文は文久泉貨とあり背は穿の左右に當百の二字を置けり南部地方の鑄造なるべし文久當時百文に通用すべく鑄造したるも行用されずして廢止されたるものか又私鑄錢なるべしとの說もあり或は然らん初見の品なり

寛永紅葉 重一匁〇六厘　松坂　水谷久右衛門出品

黑褐なる古色を被むり銅色の現はれたる部分は緒黃褐なり本品は繪錢中の存在稀少なるものとす繪錢は種類

の及び小形のものなきを見れば或は初鑄のみならんか鑄發掘の時日は明治三十二年二月土工中に發見したるものなりと云ふ

又生の知人なる丹波春町茶商兼古物商なる中山榮次郎氏は茶買入のため前記郡介野村針ヶ別所小字甲の農へ毎年數回出張の際偶和同錢を買求められたるを全部自分の手に入れたることあり今之れが大略の種別をなせば

（一）貝　和珍の二字大なるもの　五
（二）開綫小字　一
（三）至字　七
（四）隸開　六
（五）異和　三

右の如くにして總計幾何品の發掘なりしや甚だ推定に苦しむと雖も全部にて八十枚以上なりしことは確かなるものゝ如し

前號掲載二學莊所藏錢福拓本會へ寄贈し置けり何時にても御覽ありたし

○寄贈交換

東京古泉協會雜誌第百六號　東京古泉協會

考古學雜誌第五卷第三號乃至第五卷四號　考古學會

大正古錢價格圖鑑　全壹冊　下間寅之助

大正新撰古錢之栞第二集繪錢之部全壹冊　同　人

二學莊所藏錢福拓　數枚　同　人

大正三年十二月二十日印刷
大正三年十二月廿五日發行　（非賣品）
大阪市南區笠屋町二十八番地
編輯人　下間寅之助
大阪市西區安堂寺橋通三丁目九番屋敷
發行兼印刷人　岸田實之助
大阪市南區安堂寺橋通三丁目九番屋敷
發行所　大阪古泉會本部

Osaka kosenkai zasshi # 59 Dec. 1914

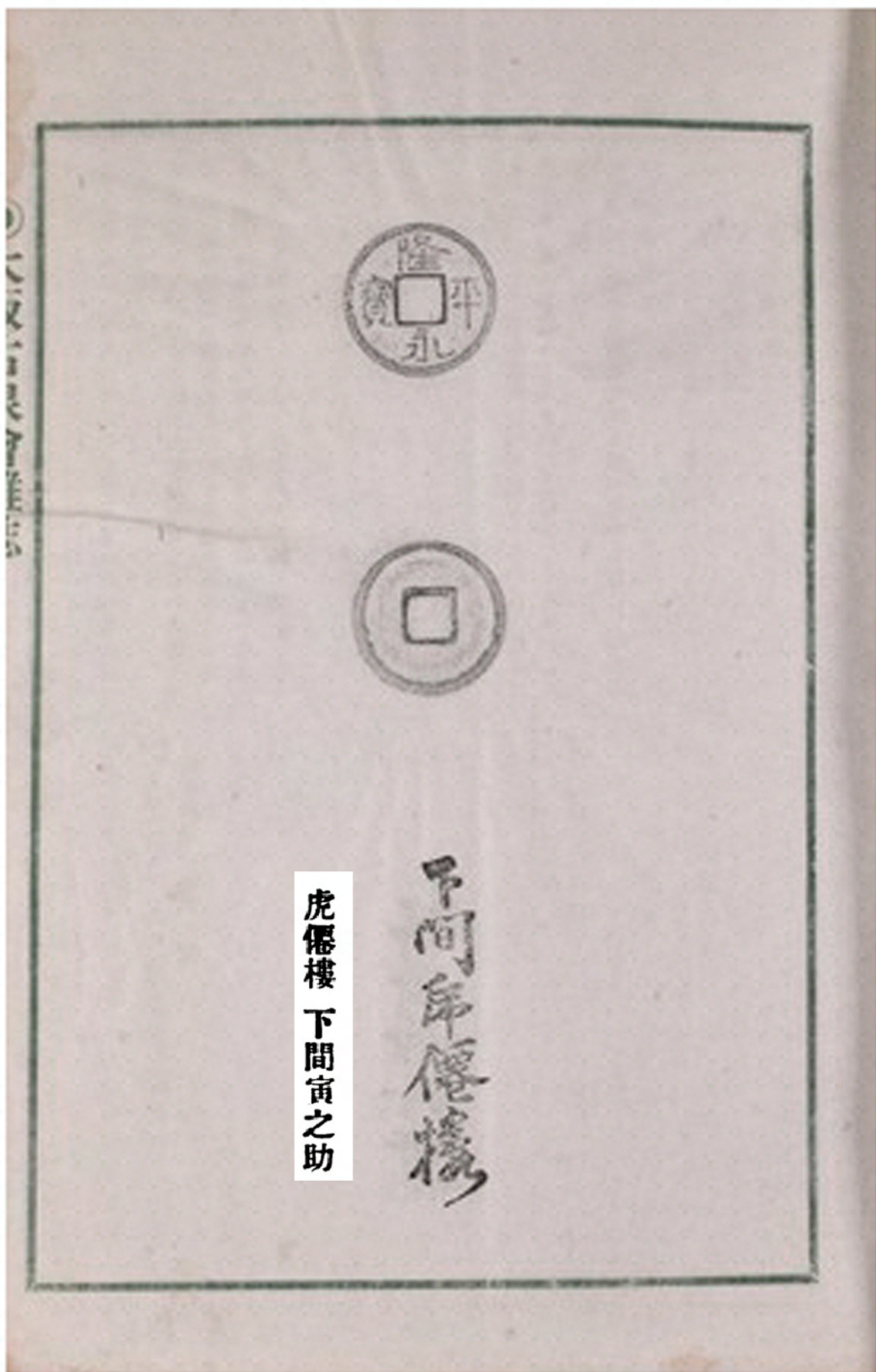
隆平永寶
虎僊樓　下間寅之助

大阪古泉會雜誌
文久永寶
紹治堂 林 静男
林紹治堂

大阪古泉會雜誌
文久貨泉
當百
畑善亀泉

糟谷安樂堂

大阪古泉會雜誌
田中清岳堂

Osaka kosenkai zasshi # 60 Jan. 1915

治三十年陸暦十月李太王皇帝登極建號の際國旗頒布の詔勅を下し京城内各官衙をして始めて門首に掲揚せしめたることありしが國旗は當に國内一般には知れ渡らざりしなり開國四百九十七年の貨幣面に顯せる太極は普通國旗及び勲章に見ゆる所の二ッ巴式の太極圖と少しく異なれり即ち宋の周敦頤が太極圖説により四個の圓心圓を中心を通ずる一直線にて分裂し左右各四卦を表示せるものなり

○入會

滿洲鐵嶺西門外	龍馬樓	樓太觀吉
奈良縣北葛城郡王子鐵道官舍	泉々堂	後藤茂助

○寄贈交換

東京古泉協會雜誌 第四十六號 第四十七號	東京古泉協會
考古學雜誌 第五卷第四號乃至第五卷第六號	考古學會

○正誤

第五十二號四頁一行	浸出りよはより浸出の誤
第五十八號三頁上段	開國五百四年の下一分シ追加す
同　上	同五百五年の下一分を追加す
同　上	光武二年の下一兩を追加す

○注意

▲次回即三月十四日の古泉會より會員下間寅之助氏方（南區八幡筋三休橋西入南側）に於て開會すべし

廣告

今回弊堂義都合に依り左記之處に假寓致候此段同好の諸彦に謹告仕候爾後泉道に關する宛名は都て屆書之通御名記被下度候

兵庫縣武庫郡精道村打出若宮廿一番地
財仙堂樂泉　水谷久右衛門

大正四年三月五日印刷
大正四年三月七日發行　（非賣品）

大阪市南區[illegible]町百八十三番屋敷
編輯人　下間寅之助

大阪市西區安堂寺橋通三丁目九番屋敷
發行兼印刷人　原田寅之助

大阪市南區安堂寺橋通三丁目九番屋敷
發行所　大阪古泉會事務所

大阪古泉會雜誌
和同開珎
甲賀圓々堂
圓々堂 甲賀 宜政

大阪古泉會雜志
畑善亀泉

常平通寶
忠
當

大阪古泉會雜志
權太龍馬樓
龍馬樓 權太 親吉

靜修軒
野崎 彦左衛門
野崎靜修軒

大阪古泉會雜誌
原田元寶堂
元寶堂　原田寅之助

Osaka kosenkai zasshi # 61 1915

糟谷安樂堂

海東通寶
原田元寶堂

大阪古泉會雜誌
甲賀圓々堂

淳祐通寶
當百

Osaka kosenkai zasshi # 61 1915

大阪古泉會雜誌
林紹治堂

大阪古泉會雜志
權太龍馬樓

Osaka kosenkai zasshi # 62 May/Jun. 1915

せしに現存希有なる壽貫示各一品宛混入しありて左の如き種類あり

（一）壽貫天　一
（二）示天　一
（三）闊緣　十九
（四）闊緣大形　二
（五）細緣　二十二
（六）普通闊緣　三十二
合計　七十二品

右は大正元年中現所藏者方に於て初めて六十二品を一見し大正三年六月中更に十五品を見たり發掘動機及び時日並びに同時發掘したる物の有無等不明なるも前記西脇町なりし事は確實なり本錢は灰黑なる泥土を附着し微少の青錆をも錢体の所々に附着し發掘錢として尤も美錢と稱すべし桓武天皇延暦年間の隆平永寶時代以後なるに隆平錢一品をも混入せざるより見れば恐くは弘仁年間に埋沒せしものならんと愚考す

○入會

大阪市南區難波河原町　舊好舍　若見　彦五郎

大正四年五月廿八日印刷
大正四年六月一日發行　（非賣品）

大阪市南區[illegible]町百八十三番屋敷
編輯人　下間實之助

大阪市南區安堂寺橋通三丁目九番屋敷
兼行印刷人　[illegible]

大阪市南區安堂寺橋通三丁目廿八番屋敷
發行所　大阪古泉會事務所

Osaka kosenkai zasshi # 62 May/Jun. 1915

水谷戝仙堂

紹治堂 林 靜男
林紹治堂

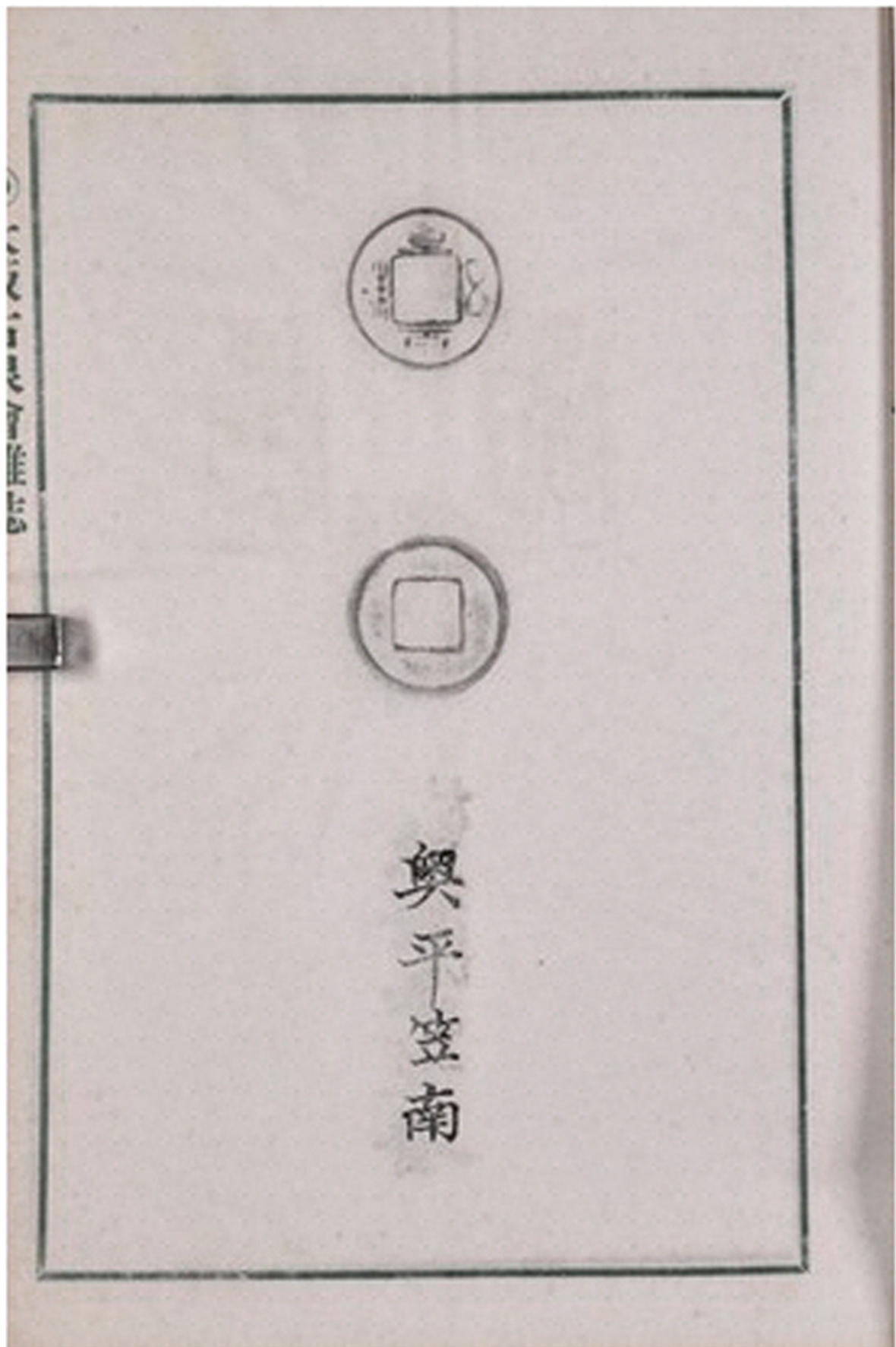
奧平空南

下間寅僊樓
虎僊樓　下間寅之助

大阪古泉會雜志
塚崎廣濟堂
廣濟堂　塚崎金次郎

大阪古泉會雜誌
大澤知足齋
知足齋　大澤德三郎

大阪古泉會雜誌
積谷安樂堂

Osaka kosenkai zasshi # 63 Aug. 1915

さて其二十枚を試に分類してけるに

隆和	一	長珍	一
隆和于	二	狹珍	五
龍鄰	二	美製	一
中孫	六	不明	二

此の如くにて發掘錢としては比較的美錢にて錆の色合もいとよろし他の三十一枚は如何成りゆきけん今は知るよしもなし

○錢貨叢話 ○○ 蕩人

(二十八)

朝鮮開國五百一年即ち我明治二十五年の年號を附して仁川典圜局に於て製出せる銀貨白銅貨赤銅貨の圓式は京城製の貨幣に彷彿たり但し相違の點は第一太極章を廢し李花章を用ゐたること第二右方の枝は李なれども左方には李を廢し槿花を設けることなり抑も此槿は朝鮮の別名にして高麗の時既に本國を稱して槿花の鄕と謂へりとも云ひ又一說に李朝の初め或る學士が朝鮮を頌揚し朝鮮國は無窮花(朝鮮語槿花ムクンファ日本語ムクゲに通ず)なりとて乾坤無窮に例へ詠詩せしに國王大に該賞し爾來國の花として尊重したるより遂に朝鮮の異名とするに至れりと云ふ現に明治四十三年八月韓國併合の詔書にも槿域とあるもの是なり

○入會

大阪市西區二條通四丁目 大野規吉

○寄贈交換

東京古泉協會雜誌第百九號第百十號 東京古泉協會

考古學雜誌第六卷第九號第十號 考古學會

大正四年八月五日印刷
大正四年八月十日發行

(非賣品)

大阪市南區鰻谷町百八十三番屋敷
編輯人 下關寅之助

大阪市南區安堂寺橋通三丁目九番屋敷
發行兼印刷人 岸田寅之助

大阪市南區安堂寺橋通三丁目廿九番屋敷
發行所 大阪古泉會事務所

Osaka kosenkai zasshi # 63 Aug. 1915

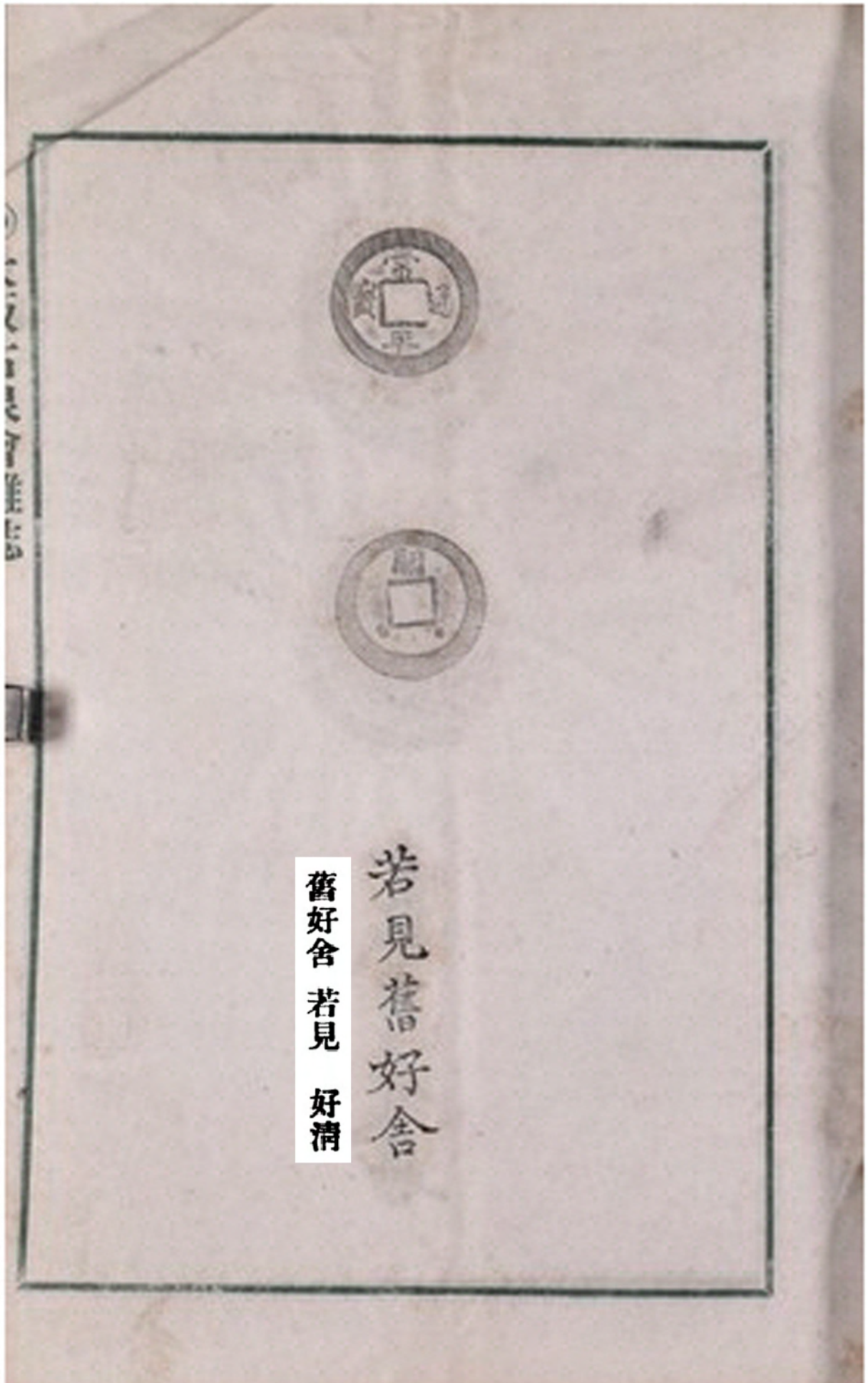
大阪古泉會雜誌
林紹治堂
紹治堂 林 靜男

●大阪古泉會雜誌
木村布流瀬尓

大阪古泉會雜誌
嘉定元寶
折十
樺太龍馬樓

●大阪古泉會雜誌
朝鮮通寶
塚崎廣濟堂
廣濟堂　塚崎金次郎

Osaka kosenkai zasshi # 63 Aug. 1915

Osaka kosenkai zasshi #64 Oct. 1915

貨に關する記事を附し大日本古錢古鈔劵雜誌第四卷第三號乃至第六號に掲載す

（十三）古泉匯　清人李佐賢が咸豐三年（西紀一八五二年）に著はせし所にして其利集巻十八に當平錢圖僅に二を揭載す

（十四）古今錢略　清人倪模が光緒三年（西紀一八七九年に著はせし所にして巻十七に當平錢圖百二十五を載す然れども圖の大小等甚だ疑ふべきもの多し

（十五）文献備考　此書朝鮮の法制變集にして正史なれば最も信據するに足ると云ふ然れども余未だ之を閲讀するの機會を得ず

◯第二回平安古泉會の開會　虎郷生報

大正四年九月十九日平安古泉會は中島泉貨堂の催主にて京都市寺町通四條下ル大雲院に於て正午より開會せられたり吉田雅泉堂合田直養山口和同軒杉浦雅樂堂山本滑稽堂等の外東京より村上忠太郎打出より水谷樂泉大阪より岡田鄭泉今城雅壽佐野英山の諸氏及び余參會せり陳列品の主なるものは村上氏の皇朝十二品中島氏の山崎猴富壽錢山本氏の乾元大寶錢七枚山口氏の承和昌寶錢二枚合田氏の銀銅笹手和同錢並に古和同錢水谷氏の大平手元和手永樂手寛永錢の珍品吉田氏の皇朝錢神戸木村氏の饒屋錢余の出陳せる大暦元寶五品乾泉若泉寶錢品銀和同錢なりき其他略之來觀者殊に多く中々の盛會にて午後五時半閉會せられたり

◯入會

備後府中町　清泉堂　高橋岩松

大阪府下高槻町高槻　双石　川中正治

◯寄贈交換

東京古泉協會雜誌第百十一號　東京古泉協會

考古學雜誌第五卷第十一號第十二號　考古學會

大正四年十月十八日印刷
大正四年十月廿五日發行　（非賣品）

大阪市南區愛珠町百八十三番屋敷
編輯人　下郷寅之助

大阪市南區安堂寺橋通三丁目九番屋敷
發行兼印刷人　草間寅之助

大阪市南區安堂寺橋通三丁目九番屋敷
發行所　大阪古泉會事務所

元寶堂　原田寅之助
原田元寶堂

大阪古泉會雜誌
大東三錢
戸
木村布流瀬ゝ

平泉國香堂
國香堂　平泉　久右衛門

大阪古泉會雜誌
乹封泉寳
廣濟堂　塚崎金次郎
塚崎廣濟堂

禮谷安樂堂

●大阪古泉會雜誌
田中清岳堂

大阪古泉會雜誌
半兩

Osaka kosenkai zasshi #65 Dec. 1915

年より行ふ

同　三十年　一八三〇年戶曹にて鑄錢す

同　三十四年　一八三四年北道（咸鏡道）に命じ鑄錢所を設けしむ

憲宗二年　一八三六年廣州府にて鑄錢す

哲宗元年　一八五〇年戶曹にて鑄錢す明年終る

太皇帝三年　一八六六年當五錢を鑄造す

同　二十年　一八八三年萬里倉に命じ鑄錢所を龍川府に移さしむ、當五錢を鑄造す、四月江華府にて當五錢を鑄造す、六月義州にて鑄錢す

同　廿五年　一八八八年內務府啓して西江、伏波標亭にて鑄錢を乞ふ

同　廿八年　一八九一年西營にて鑄錢す

同　三十年　一八九三年平壤にて粗惡錢を鑄造す

○錢貨叢話　○○道人

（二十九）

大韓の半圜銀貨に鷲圖を附せるものあり現今存在極めて稀少なりとすこれは光武五年（我明治三十年）露國の勢力漸く韓廷に發こり來たりし結果本邦貨幣に倣ひたる從來の韓貨圓式の鑄を廢棄し更に亭露構式の鷲圓を附せしものあれども其圖は露國の雙頭鷲にあらずして左向單頭鷲なり胸に太極章を現はし其周圍に八個の圈內八卦を設けり左右の翼に各四個の太極章を載せ左爪に劍を握り右爪に地球を摑めり此銀貨は同年秋龍山典圜局に於て製造せしものにて一旦宮廷に納めしが終に之を發行するに至らずして日露戰役中大阪に廻送して之を改鑄に付せられたり其鑄潰の厄を免れたるもの僅々數枚のみ此れ其現存稀少なる所以なり

大正四年十二月十九日印刷
大正四年十二月廿四日發行　（非賣品）

大阪市南區桑津町百八十二番屋敷
編輯人　下間寅之助

大阪市南區安堂寺橋通三丁目九番屋敷
發行兼印刷人　厚岡寅之助

大阪市南區安堂寺橋通三丁目九番屋敷
發行所　大阪古泉會事務所

大阪古泉會雜誌
靜修軒
野崎 彦左衛門
野崎靜修軒

瑞平通寶
高橋清泉堂

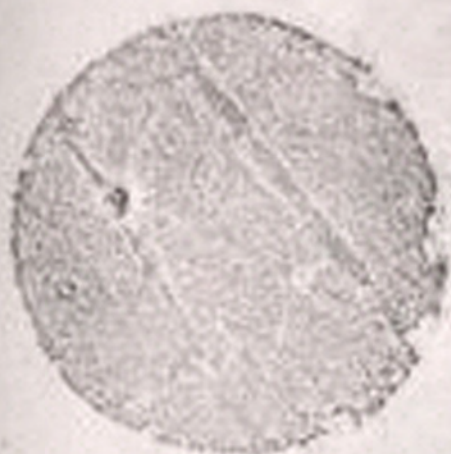
隆興元寶
後藤泉々堂
泉々堂　後藤
茂助

Osaka kosenkai zasshi #65 Dec. 1915

紹治堂 林 靜 男
林紹治堂

大阪古泉會雜誌

Osaka kosenkai zasshi #65 Dec. 1915

Osaka kosenkai zasshi #66 Feb. 1916

（五）換當の種類

常平錢の換當は四種あり當一、折二、當五、當百是なり當一錢は普通の小平錢にして一文に當る然れども此換當の標記を有するにあらず

折二錢は二文に當る錢なり爾文なる二の字を以て之を標記するものありされど悉く然るにはあらず最初は當二錢は黃銅を以て鑄造されたり此事前間恭作の朝鮮通貨誌に記する所にして韓國貨幣整理報告書の如き或は其眞否を詳にせずとの說をなすものあれども折二錢中最も古式と認むべきもの卽ち背文管二、訓二、戶二、餉二、摠二等の如き折二錢實に純然たる黃色錢なるに因り考ふれば其事實たりしや疑なきものとす

折二錢は當一錢より大形にして且つ重く鑄造せられたるは無論なれども時代の變遷に隨ひ大さ及び重量とも漸次減少せられ近年に於て民間實際の通用には換當の差は毫も認められず何種を論せず皆同價を以て授受せられたり

當五錢は我明治十六年に初めて鑄造せられしものなり此事日本參考書の皆一致する所なれども獨りガードナー氏は之を一八七七年の鑄造なりと云へり蓋し誤まれり

此錢價格五文の換當にして必らず背に當五の標記を付せり然るに上に記する如く此錢は大小輕重の差なく都て同一の價を以て民間に通用したり而して當五錢は民間の氣受け宜しからず其通用は唯京城接近の地に限れり

當百錢は大院君が景福宮造營の爲めに我慶應二年に鑄造せしめたるものなり然るにガードナー氏は之を明治十六年の鑄造となせり恐くは當五錢を取違へたるならん而して此錢換當々を得ず錢貨中最も不人氣なりしかば政府は止むを得ず一年にして之を停止せり其鑄造高も多からざりしを以て現今其存在多からず此錢背に當百と記して換當を標記せり

（非賣品）
大正五年二月廿六日印刷
大正五年二月三十日發行
大阪市西區阿波座町百八十二番屋敷
編輯人　下間寅之助
大阪市南區安堂寺橋通三丁目九十番屋敷
發行兼印刷人　原田寅之助
大阪市南區安堂寺橋通三丁目六十番屋敷
發行所　大阪古泉會事務所

大阪古泉會雜誌
後藤泉々堂

大阪古泉會雜誌

和同開珎
甲賀圓々堂
圓々堂 甲賀 宜政

大阪古泉會雜誌
和同開珎
塚崎廣濟堂
廣濟堂　塚崎金次郎

奥平笠南

大阪古泉會雜誌　第六十七號

Osaka kosenkai zasshi #67 May 1916

字は數を以て紀し卦を以て紀す戶は乃ち戶曹工は乃ち工曹備は乃ち總戎廳訓は乃ち訓鍊都監宣は乃ち宣惠廳統字は水軍統制賑字は賑䘏廳禁字は禁衛營にして昔官を紀するなり開字は開城府全字は全羅道成字は成鏡道黃字海字は黃海道江字は江原道にして昔地を紀するなり餘は未だ詳ならず

左表は總ての主文を網羅するものなり

營 營	御營廳
海	黃海道監營
開	開城管理營
成	成鏡道監營
寨	未詳
禁	禁衛營
惠	宣惠廳
司	未詳
原	未詳
向	摠禦廳
戶 戶 戶	戶曹
均	均役廳
畿	京畿監營
黃	黃海道監營
訓	訓鍊都監
京 京	京畿道
經	經理廳
昌	昌德宮
守	守禦廳
成	未詳
春 春 寨	春川
協	協營
工	工曹
江	江原道監營
尙	慶尙監營
抄	精抄廳
宣	宣惠廳
川	春川
全	全羅道監營
摠	總戎廳
統 統 統	統衛營
賑	賑恤廳
水	未詳
松	開城
典	典圜局
備 備	備邊司
武	武備司
平	平壤監營
兵	兵曹
利	利原

大正五年五月四日印刷
大正五年五月七日發行　（非賣品）
大阪市南區谷町百八十三番屋敷
編輯人　下間寅之助
大阪市南區安堂寺橋通三丁目九番屋敷
發行兼印刷人　厚間寅之助
大阪市南區安堂寺橋通三丁目九番屋敷
發行所　大阪古泉會事務所

大阪古泉會雜誌
原田元寶堂
元寶堂　原田寅之助

大阪古泉會雜誌
林
紹治堂
紹治堂 林 靜男

甲賀圓々堂
圓々堂 甲賀 宜政

糟谷安樂堂

奥平笠南

和同開珎
野崎静修軒
靜修軒　野崎彥左衛門

大阪古泉會雜志
萬年通寶
後藤泉々堂
泉々堂　後藤
茂助

Osaka kosenkai zasshi #68 May 1916

め外國のものに比し我が銅貨は非常に大形にして重きものとなり單に日常流通上に不便なるのみならず晩近銅價騰貴の爲め或は地金として鑄潰しだる方利益あらんも計られざる有樣となれりかくては甚だしき國家の損失なれば銅貨を輕小にするに若かずとの議起り遂に法律案となりて帝國議會に現はれやがて可決の上大正五年二月中貨幣法中の改正となり又三月中形式の勅令改正となれり卽ち新青銅貨は

一錢青銅貨　量目一匁　徑曲尺六分二厘

五厘青銅貨　量目五分六厘　徑曲尺五分六厘

の二種にして其圖式は總て從來のものと異なれり然も新模樣の一錢青銅貨は既に五月上旬より發行せられ同模樣なる五厘青銅貨も六月中には發行せらるべく又有孔の新白銅貨は秋期には製造の運びに至るべしと云ふ

○入會

奈良縣入末町𥶡泉堂森田重治郎奈良市東向南町左園吉田安治郎兩氏

○寄贈交換

東京古泉會雜誌第百十二號乃至第百十五號　東京古泉協會

考古學雜誌第五卷第三號乃至第六號　考古學會

○正誤

第六十二號三頁上段七行　自は白の誤

第六十三號二頁下段十九行　好は存の誤

第六十四號六頁上段一行　貨は銀の誤

同　號六頁上段九行　剝は制の誤

第六十五號四頁上段五行　楷は猶の誤

同　號四頁上段末行　鄭は剣の誤

同　號五頁上段四行　さはての誤

同　號六頁下段三行　あれはなれの誤

第六十六號四頁下段八行　をはその誤

大正五年五月三日印刷
大正五年五月七日發行
（非賣品）
大阪市南區谷町八十三番屋敷
編輯人　下關寅之助
大阪市南區安堂寺橋通三丁目六番屋敷
發行兼印刷人　草間實之助
大阪市南區安堂寺橋通三丁目六番屋敷
發行所　大阪古泉會事務所

野崎静修軒
静修軒　野崎　彦左衛門

大阪古泉會雜誌
甲賀圓々堂
圓々堂 甲賀 宜政

奥平空南

虎僊樓　下間寅之助

大阪古泉會雜誌
乾封泉寶
森田神泉堂

塚崎廣濟堂
廣濟堂 塚崎金次郎